

当院において2009年1月～2013年12月までに性索間質腫瘍又は胚細胞性腫瘍の治療を受けた方へ
臨床研究「がん治療施設における妊孕性温存がん治療、がん・生殖医療連携に関する実態調査」
へご協力をお願い

研究機関名 岡山済生会総合病院・岡山済生会総合病院附属外来センター
研究責任者 産婦人科 関 典子

1. 研究の目的と意義

近年、若いがん患者は増加傾向を示しています。一部の女性の若年がん患者さんでは、治療により卵巣機能が低下し、閉経の早期発来や妊孕性（にんようせい：妊娠のしやすさ）の消失などを来す可能性があります。若年女性がん患者さんは、性腺摘出によって「子宮や卵巣を失った」、また「月経が来なくなった」など女性としての強い喪失感を感じる事が少なくなく、がんサバイバーシップ(女性としてのQOL)を向上させるためには、医師のみでなく看護師や心理士などのヘルスケアプロバイダーと密な連携をとり、若年がん患者さんが希望を持ってがんと闘うことができる様に、サポートを行う必要があります。しかし日本では、各がん治療施設における妊孕性の温存を意識したがん治療の実態は不明で、今後の日本のがん治療の在り方ならびに、がん・生殖医療連携ネットワークの発展を考える上で大きな障壁となっています。

本研究では各がん治療施設の若年がん患者さんにおける妊孕性温存がん治療、がん・生殖医療連携に関する実態調査を行い、日本における妊孕性温存がん治療、がん・生殖医療連携の実態を明らかにすることを目的としています。

2. 研究実施施設

この研究は聖マリアンナ医科大学 産婦人科学講座を中心として計画され、全国の医療機関から情報を集めるものです。当院もこの研究に参加します。

【研究代表者】

所属：聖マリアンナ医科大学 産婦人科学講座 氏名：鈴木 直

3. 研究の方法

1) 研究対象：

岡山済生会総合病院産婦人科において2009年1月～2013年12月の間に性索間質腫瘍又は胚細胞性腫瘍に対して、妊孕性温存を目的とした初回の治療を受けた15～39歳の患者さんが対象です。

2) 研究期間：

当院倫理審査委員会承認後～2020年3月31日

3) 研究方法：

対象となる患者さんのカルテから以下の情報を集め、聖マリアンナ医科大学 産婦人科学講座に提供します。

4) 使用する情報

下記の治療や検査の有無、内容、状態について情報を収集します。

治療施設名、記入担当者名、年齢、結婚歴、妊娠既往、月経、月経異常・不整、挙児希望の有無、CA125値、AFP値、卵巣予備能検査、手術情報、病理組織分類、術後化学療法、E2値測定、FSH値、AMH値、卵巣内卵胞数カウント(AFC)測定、基礎体温にて排卵の有無確認、治療後月経開始までの期間、治療後の挙児希望、治療後妊娠、妊娠判定日、生殖医療（不妊治療）、体外受精あるいは顕微授精施行時の採卵、妊娠時合併症、妊娠の転帰、分娩形式、分娩週数、再発、再発時の治療内容、再発時の妊孕性温存治療、再発治療後の生殖医療（不妊治療）、最終生存確認日、等

5) 情報の保管

本研究に使用した情報は、研究終了後5年間は保管し、その後破棄させていただきます。

6) 情報の取り扱い

個人情報が入り漏れしないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

カルテから収集された情報を聖マリアンナ医科大学産婦人科学講座に提供する際には、あなたの個人が識別できる情報は削除し、匿名化した上で行います。収集した情報は同講座の管理下で厳重に取り扱います。

7) 結果の公表

この研究の結果はあなたの個人情報がわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、2018年6月30日までに下記の連絡先までお申出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。

問い合わせ・連絡先

岡山済生会総合病院

〒700-8511 岡山市北区国体町2番25号

TEL 086-252-2211 (大代表)

産婦人科 関 典子